

令和 8 年 度 事 業 計 画 書

(令和 8 年 4 月 1 日～令和 9 年 3 月 31 日)

1. 書道文化の普及（第 4 号事業関係）

・春敬記念書道文庫収蔵品の展示及び貸出を行い、書道文化の普及を広く行う。

- (1) 令和 8 年 4 月 29 日(祝日)開催予定のかな書道作家協会主催「第 65 回現代かな書道専門講座」において、5 点貸出す予定である。
- (2) 特別展 「源氏物語 王朝のかがやき」(令和 8 年 10 月 6 日～11 月 29 日・東京国立博物館 令和 9 年 1 月 19 日～3 月 14 日・京都国立博物館) に 4 点貸出す予定である。
- (3) 森万里子展(令和 8 年 10 月 31 日～令和 9 年 3 月 28 日・六本木 森美術館) に 1 点貸し出す予定である。
- (4) 「日本の書の美 1300 年」仮称(令和 9 年 3 月～5 月・皇居三の丸尚蔵館) に 1 点貸し出す予定である。

2. 書道に関する展覧会の実施（第 5 号事業関係）

(1) 連合書道展、関東女流書展の実施

書道の奨励・育成を目的とした「第 77 回連合書道展 第 40 回関東女流書展」を令和 8 年 9 月 1 日(火)～9 月 8 日(火)まで東京都美術館において開催する。連合展の参加団体は 13 団体になる予定である。関東女流書展の出品者は、昨年は 180 名であったがその増加を図る。両展併せての総点数は約 650 点前後となる予定である。また、例年好評を博している席上揮毫を今年も開催の予定である。

第 72 回展より企画した学生部展と平安書道研究会の学生による臨書展については今回も開催の予定である。

3. 書道専攻者の養成（第 7 号事業関係）

(1) 平安書道研究会の実施

日本書道史研究に必要な専門的内容を学ぶ平安書道研究会を、令和 8 年 4 月(913 回)～令和 9 年 3 月(924 回)まで、東京国立博物館平成館講堂を主会場にして開催の予定。講師陣は、池田和臣先生(中央大学名誉教授)、笠嶋忠幸先生(出光美術館学芸部長)、高木厚人先生(かな書道作家)、名児耶明先生(筆の里工房館長)、及び四辻秀紀先生(徳川美術館特任学芸顧問)、橋本貴朗先生(國學院大學教授)の 6 名である。また、臨書指導は、石川昇玉先生、大賀晴苑先生、大林靖芳先生、下谷洋子先生、佐野玉帆先生、鷹野理芳先生、竹田晃堂先生、

松井玉箏先生、渡辺貴彦先生に加えて新たに、石川朱玉先生、原田弘琴先生、渡邊之響先生に担当していただく。今後も日本書道美術院の先生方のみならず、毎日書道会所属の日書美以外かな作家にも依頼して進めていく予定である。

(2) 日本書道史研究講座の実施

日本書道史を通史的、体系的に学ぶ日本書道史研究講座を令和8年4月～令和9年3月まで、東京国立博物館平成館講堂を主会場にして開催の予定。

令和8年5月には、第67期生（令和5年5月入学）20名が三カ年の課程を終えて卒業の予定。卒業生には、特待生として引き続き留まってもらおうべく努力したい。なお、現在第70期の入学生を募集している。

(3) 臨書実技講習会の実施

今年度で10回目となる「臨書実技講習会」を令和8年9月27日（日）に開催する予定。受講生の反応としては、少人数での個別指導などにより、普段の講習では聞けないような内容を忌憚なく質問でき有意義であるというもの。受講生の期待も高まっている。今年の主任講師は渡辺貴彦先生にお願いし、快諾をいただいている。

(4) 平安書道研究会受講生への臨書作品募集と展示

平安書道研究会の受講生から臨書作品を募集し、令和7年度の第76回連合書道展で展示（出品23名）を行い、出品者からも観覧者からも好評であった。令和8年度は第9回として、実施する計画である。

4. その他

(1) 「講師の先生を囲む会」の実施

例年開催していた「講師の先生を囲む会」は、令和8年2月に東京都美術館のレストランで開催した。参加者は客員講師、理事、監事、正会員、受講生を含めて合計76名であった。今期も令和9年2月または3月に開催を予定している。

(2) ホームページの現状

令和2年6月よりホームページを立ち上げた。逐次、平安書道研究会の予告を行い、連合書道展に関しても開催予告及び事後報告を兼ねての情報を適宜アップし、受講生にも認知されつつある。令和7年5月には平安書道研究会の紹介動画をアップし、研究会の一日をわかりやすく紹介している。受講生への早期の連絡手段でもあり、今後とも必要な情報などを掲載し、重要なツールとして位置づけたい。